

多収で早播が可能な大豆「ちくしB5号」

農産部

1 背景、目的

福岡県は大豆作付面積が約 8,500ha で全国的な大豆の生産地であり、主要な品種は豆腐加工適性が高い「フクユタカ」です。近年、不作が続いており、実需者からは安定供給を強く求められています。また、生産現場からは6月の降雨が少ない時期に早播きが可能な多収品種が要望されています。そこで、「フクユタカ」並の加工適性があり、多収で栽培性に優れ、早播も可能な大豆新品種を育成しました。

2 成果の内容、特徴

「ちくしB5号」は平成21年に「フクユタカ」を母に、「(フクユタカ/タチナガハ) F₂」を父として人工交配を行った組合せに由来します。

「フクユタカ」と比較して、次のような特徴があります。

- 1) 成熟期は2日早く、主茎長は短く、最下着莢高は高く、倒伏や青立ちの発生は少なく栽培性に優れます。百粒重がやや重く、収量は8%多くなります。検査等級は同程度に優れています(表1、図1)。播種期を早進化するると問題となりやすい倒伏や青立ちの発生が少なく、6月中下旬から早播きできます。
- 2) タンパク質含有率はやや低く、ショ糖含量は高い傾向にあります。豆腐の食味は、甘味やこくの評価が高く、総合評価はやや優れます(表2)。豆腐の性状はやや柔らかく、豆腐や豆乳の加工適性は同等に優れています。
- 3) 粒大は同程度の「中の大」、へその色は「黄」でフクユタカと区別できます(表2、図2)。

3 主要なデータ・画像など

表1 「ちくしB5号」の生育特性・収量性および品質

品種名・系統名	成熟	倒伏	主茎	最下	青立	子実重		百粒重 (g)	検査等級
	期 (月/日)	程度 (成熟期)	長 (cm)	着莢高 (cm)	程度 (成熟期)	(kg/a)	比率 (%)		
ちくしB5号	11/6	1.1	64	13.0	1.6	33.7	108	31.6	1.8
フクユタカ	11/8	2.0	68	11.6	2.2	31.2	(100)	30.1	1.9

- 注) 1. 倒伏程度は0(無)～4(甚)の5段階、青立ち程度は0(無)～5(甚)の6段階で評価。平成24～27年の4カ年平均値。
 2. 検査等級は1(1等上)～6(2等下)の6段階で示した。
 3. 播種日は7月11日。

表2 「ちくしB5号」の品種特性・豆腐加工適性

品種名・系統名	粒大	へその色	タンパク質含有率 (%)	ショ糖含量 (g/100g)	豆腐食味官能評価		
					こく	甘味	総合
ちくしB5号	中の大	黄	44.8	8.21	0.40	0.35	0.35
フクユタカ	中の大	淡褐	45.7	7.18	0	0	0

- 注) 1. 粒大、へその色、タンパク質含有率は平成24～27年産(育成地)。
 2. ショ糖含量は平成27年産の現地試験(中間市、筑前町)。
 3. タンパク質含有率は近赤外分析装置(F社)により測定、水分15%換算。
 4. 豆腐食味官能評価は穀物検定協会で行われ、フクユタカを0とした場合の評価(-1.0:明らかに劣る～1.0:明らかに優れる)。



図1 草姿の比較

注) ちくしB5号(左)、フクユタカ(右)



図2 子実の比較

注) ちくしB5号(左)、フクユタカ(右)